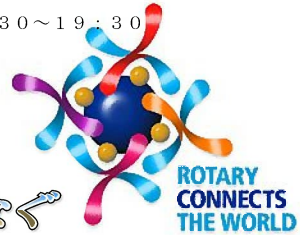


皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
 ◇点 鐘 畝 徳治会長
 ◇ソング 奉仕の理想



ロータリーは世界をつなぐ

第1493回例会 令和元年11月28日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんばんは。親睦例会の時は日野原先生の文章から自分達の生活に関係ありそうな事を拾い出して紹介しています。今日は「考える習慣が好奇心を育てる」という事で、年若いでも考える事が大事だという事ですが、抜粋した部分を読ませて頂きます。



私が理事長をやっている財団法人ライフ・プランニング・センターには、75歳を越えてからパソコンを習いに通ってくる新老人の方が大勢います。そこでは1年先に入った人が、後から入ってきた人に教えるというシステムも出来上がっていて、教える側も、教えられる側もぐんぐんレベルアップしていくのです。

「機械はどうも苦手」と言って、最初は躊躇していた人でも、実際に始めてみると楽しいようで、パソコンを始めてから表情が生き生きしてきたという人も聞いています。

高齢者は若い人に何かを教えることが重要だと書きましたが、時には若い人たちと一緒に学ぶクラスメートのような関係を築くことが出来たら理想的だと思います。同じ時間を過ごし、高齢者も若い人も、ともに学び、教え合うことが出来ます。

こうして学びながら、その知識や経験を自分のために使ったり、ボランティア活動に利用したり、バランスをとって柔軟に楽しく生きれば良いのです。人間は歳とともに枯れるのではなく、成熟するのです。成熟に向かって、これからもいろいろな方面で学び、考える習慣を培っていくように努めたいものです。

「どうしてこうなるのだろう」と疑問が生じたときは、それを放置してはいけません。そんな時こそ、考えるチャンスなのです。分からなければ専門家にたずね、説明を求めるくらいの積極性を持ちたいものです。

そして疑問が解消できたときの喜び・・・。こういうことを自然に繰り返していると、やがて考えることが楽しくなります。

付け足すとすると、知らなかったことを知る、理解出来なかった事を理解できるようになる。確かに、それらの過程で喜びを感じられるように思います。福沢諭吉も学問のすすめの中で、「疑いの世界に真理多し」と言っています。

更に付け足すと、人間は年とともに枯れるのではなく、成熟するのです。老いという事を言ったと思いますが、日本語では老いは年を取って老いぼれるという意味と生い茂るの生い、両方成長するという事で共通ですが、日野原先生の言っている成熟も同じような趣旨の意見だと思います。

皆さんも好奇心を持った生活をしたらどうでしょうという事です。私自身も一つ一つは小さい事ですが、いろいろな事に挑戦しているつもりです。

【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所より青少年交換学生帰国報告会の案内
2. 村田ガバナー補佐より第4グループによる台湾への人道的支援事業の報告
3. 深谷ノースロータリークラブよりメーキャップの案内



(株)埼玉商工サービス

代表取締役 岩田 勉さん
 宝登山の鳥居の交差点100メートルくらいの左側の建物で、会社と家は一緒ですが、下が飲食店になっています。ぜひご利用頂ければと思います。

以前は駅前に店がありましたが、2年前に国道沿いに移りました。売上は下がっていませんが、場所が移ったという事で売れる物に変化がありました。例を挙げますと、以前は100個かき氷が売れたものが現在は1個という状況で、食べ物の主になったので、原価率が上がるという事になります。売上は上がっても原価率が上がっているので儲けが少ないという状況です。2年目は台風等の影響で3割売上が減っている状況です。

ロータリーさんの例会に参加するのは2回目です。ゆくゆくは皆様とともに活動が出来ればと思っています。見通しがつきましたら入会したいと考えております。

出席率 100%

ニコニコボックス

- ◆妻のお祝いをして頂き、ありがとうございます。
畝 徳治
- ◆今月69才になりました。元気に山登り、スキーをこれからもしたいと思います。
山田 利明
- ◆明日11月29日は49回目の結婚記念日です。覚えているだけでも、まだまだ大丈夫でしょうか？
小林 一夫

合計 5,000 円

お誕生日おめでとうございます



畝会長様

恵美子さん



敦盛 2回

敦盛の続きです。実盛に色々と問われているうちに正体を現します。地「身の技の。好ける心により竹の。好ける心に寄竹の。小枝蟬折さまさまに。笛の名は多けれども。草刈の吹く笛ならばこれも名は。青葉の笛と思しめせ。住吉の汀ならば高麗笛にやあるべき。これは須磨の塩木の蜚の焚きさしと思しめせ・海人の焼残とおぼしめせ

持っている笛が青葉の笛だと思って欲しいと言って、敦盛であることを仄めかします。紹介はここまでとします。

